

相当前の話で詳細を忘れたが是非書こうと思っていたノンフィクション。

インコを長年飼育しているある家族の物語です。ファミリーの一員であるインコが何かのはずみで行方不明になってしまい、あきらめ状態で心を痛めていると、「お宅はもしかインコを飼っていますか、そのインコを逃がしませんでしたか?」という全く知らない人から突然電話がきたとのこと。そして、インコは長い旅を終えて無事に帰宅できたと言う話です。これで終わるとまるで誰かのマジックショーみたいです。

種を明かすと、帰りルートが分からなくなったインコが何処かの庭に舞い降りるたびに、電話番号と住所の一部をさかんに発していたらしい。たまたまそれに気付いたある人がインコ君を捕獲し、親切に連絡してきたのである。

現役を終わる時、会社が親切に作成し渡してくれたカードを思い出し、改めて財布の中に入っていることを確認した。

氏名、住所、電話、健康保険証番号、自宅以外の緊急連絡先、OB会員事務局の電話が記入されている。しかも、「外出する時はいつも身につけましょう」と赤字で書いてある。いつ何処で倒れてもこれさえ持っていれば自宅にたどり着けそうだ。貰った時は笑っていたが、大事なこともかもしれない歳になってきたと思います。

これを書いているうちに友達から聞いた話を思い出した。

海外旅行でバスツアーをしている時のこと、目的地についてガイドから集合時間を言い渡され三々五々と散らばった。時間になっても約一、二名がどうしても帰バスしない。よくある話で時間を忘れたり、道に迷うものがかならず居るものである。随分待ったころ、迷い人が何か気まずい顔をしながら乗車してくると、皆が一斉に注目し、どんな顔でどんな服装、どんな人なんだと言うわけです。一瞬沈黙になるムード……その時、すかさずガイドが大きな声で、「少し道に迷ったようですね、よくあることです！ 私などは道に迷ってもう三十年経ちます！」バスの中が爆笑に包まれ、明るい雰囲気に戻ったとのことです。さすがベテランガイド！ 私もこんな言葉がとっさにひらめくセンスを持ちたいものだと思った。

## 71・電波腕時計

時間の経つのは早いもので、あんなに暑かった夏の記憶が薄れかかってきた。歳のせいとは思いたくないが若い人もきっと同じだと思いたい。師走という忘年会と年賀状、年賀状の裏も表もパソコンで作るこの頃では、手書きのものに実に温かみを感じる。

今年は表裏とも手書きをと思っていたが、いざとなると字の下手さと面倒くささで結局パソコン活用になってしまった。でも、裏面の空きスペースに下手で個性的な字で文章を少し添付することを忘れない自分は、相手に伝わるかど

うかは別として、温かい人だと勝手に思ったりしている。

町会の忘年会で隣席の人が急に私の目の前に腕を突き出した。「定年記念に会社からもらいましたよ、電波時計です。結構高価で五、六万らしいです」

腕時計には昔から興味があり、ましてや電波時計の存在は知っていたが見るのは初めて、早速手に持たせてもらいデザインや重さをチェックした。

「電波は福島とか九州から飛んで来るみたいですよ」との彼の追加説明にホウもと無線技術者の端くれとしては、そんな遠くの電波を受けてるの？ と少し半信半疑の気持を隠せない。

帰宅後、ほろ酔い気分ですぐにPCをON、電波時計について調べないと気がすまない自分はやはり昔技術屋だった癖が抜けてないようだ。十万年に一秒の誤差しか生じない「原子時計」。これを送信される標準電波を受信し、自動的に時刻や日付を修正する時計、なるほどスゴイ！ ところで送信所は？

彼の説明は間違ってたなかった。福島県と佐賀県にあるらしく受信エリアは半径九百キロメートルとのこと、佐賀県の電波は関東まで到達し、福島の電波は北海道全域から山口県まで達しているようだ。

念のため家にある柱時計、置時計、腕時計を数えてみたら、合計十二個あった。でも、時刻は人の顔や性格のように全て同じではなかった。腕時計メーカーのHPを見ると、アンテナ内蔵、ソーラセル内臓、それにしても時間が狂うことなく、合わせ直す必要がない絶対時刻を示すウォッチには改めて魅力を感じてしまった。

何かで読んだ気がする。昨今は時間を確認するのはケータイでOKと言う人が増えており、国内の腕時計販売数は十年前の三分の一に落ち込んでいるらしい。ウーン納得、時計メーカーも大変なんだ。最近、犯罪やいじめを防止するため校内でケータイを携帯することを禁止する動向があるが、時計メーカーはウエルカムかもしれない。

忘年会の彼の時計話で思い出し、二十年ほど前にバーレン空港で一目惚れし十年ほど愛用し、その後引き出しの奥に安置したままになっている時計を思い出した。久しぶりに手に取ると実に懐かしい、早速電池交換すると何か話しかけているようだ。昔の恋人（は居なかったが）に再会したような、いや、私の場合は、長期海外出張（企業戦士）から戻り、古女房に再会したような気分になった。

## 72・吾も亦（また）紅（くれない）なり

夏の頃テレビを観ていたら、今まで知らなかった歌手が知らなかった唄を歌っていた。聴いている内に心の琴線に触れたようで感動した。どうやら「吾亦紅」という歌らしい。

その後しばらく経ち秋になり又忘年会のシーズンがやって来たなくと妻に話した途端、突然例の唄を思い出し、そうだ練習してみようと思ひユウチューブ

で検索、お気に入りに入れて何度も聴き練習することにした。

それにしても吾亦紅（われもこう）ってなんだろう。ネットで調べると秋の高原で咲くバラ科の花で、秋の十五夜のお月見にはススキとともに欠かせないものらしい。なるほど一つ勉強した。

また、「吾木香」「吾亦紅」「割木爪」と言うようにいろいろな漢字が当てられ、花言葉は「愛慕」。さて肝心の唄だが歌詞はつぎのようである。作詞：ちあき哲也 作曲：杉本真人

マツチを擦れば おろしが吹いて  
線香がやけに つきにくい  
さらさら揺れる 吾亦紅  
ふと あなたの 吐息のようで  
盆の休みに 帰れなかった  
俺のずさんさ 嘆いているか  
あなたに あなたに 謝りたくて  
しごとに名を借りた ご無沙汰  
あなたに あなたに 謝りたくて  
山裾の秋 ひとり逢いに来た  
ただ あなたに 謝りたくて

小さな町に 嫁いで生きて  
ここしか知らない 人だった  
それでも母を 生き切った  
俺、あなたが 羨ましいよ  
今はいとこが 住んでる家に  
昔みたい に 灯りがともる  
あなたは あなたは 家族も遠く  
気強く寂しさを 堪えた  
あなたの あなたの 見せないきずが  
身に染みて行く やつと手が届く  
ばか野郎と なじつてくれよ

親のことなど 気遣う暇に  
後で恥じない 自分を生きろ  
あなたの あなたの 形見の言葉  
守れた試しさえ ないけど  
あなたに あなたに 威張ってみたい  
来月で俺 離婚するんだよ  
そう、はじめて 自分を生きる

あなたに あなたに 見ていてほしい

髪に白髪が 混じりはじめても  
俺、死ぬまで あなたの子供

それにしても歌詞の終わりのところ（赤字）の意味がどうも分からない。離婚することなぜ今は亡き母親に威張るのか？ 離婚してはじめて自分を生きるのか。なぜ？ 違和感百パーセントになってしまった。この部分が別の歌詞ならよい唄であるが、どうもこの部分が引つかかるので忘年会選曲から外すことにした。もう少し素直に分かり易い作詞をお願いしたいものだと思う。でも、自分なりに解釈してみることにした。

決して幸せではなかった、むしろ不運な生涯の中で苦勞しながら気強く生き、子どもを育ててくれた母、その母の苦勞、愛に気付かずいろいろ心配ばかりかけてしまった中高年の男が、木枯らしが吹く晩秋に今は亡き母の墓前で懺悔している姿が目には浮かぶ。そばにある吾亦紅の実がさらさら寒風にゆれている、今更母の吐息、微笑、母の生き様が思い出される。昔、母からの便りに書いてあった。何ごとも騙すことなく言い訳することなく正直に正しく、よくよく全うしなさいよと・・・でも、あの頃聞く耳を持っていなかった。

地位、名声、金、自分の得になること本位に考え、間違った結婚をしてしまった自分、恥じない自分を生きる、あの形見の言葉を思い出し・・・離婚を決意。自分もやつと母の生き様に近づけそうです。やつと正直な自分を取り戻し、あなた(母に)に胸をはれそうです。

「吾も亦（また） 紅（くれない）なりと ひそやかに」と昔の歌人も詠んでいるらしい。作者の本意は分からぬが、歌を聴いていてここまで解釈する人は少ないことだろう。多分私のように違和感で困惑する人が半数以上ではないだろうか。